

評価対象年度	平成 30 年度
1次評価日（課長等）	元 年 9 月 30 日
2次評価日（部長等）	元 年 10 月 1 日

施策評価表

1 施策の概要

施策名	良好な都市景観の保存と創造	コード	15-1
この施策の主な内容（細施策）	(1) 都市景観の整備		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	豊かな自然景観を育むと共に、優れた歴史的景観等を保全しながら、魅力ある都市景観を創出する。		
担当部課	部 建設水道部	課等 都市計画課	作成者 小口智行

●施策の実施内容（D0）

2 施策指標の達成状況

*第4次総合計画（最終年度：平成30年度）における目標指標の達成状況、第5次総合計画（前期計画：令和5年度）における目標値

施策指標名	単位	28年度	29年度	30年度		元年度	5年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値(第5次)	目標値(第5次前期)
① 良好な景観に資する建物など	件	43	55	35	61	174.3%		
指標説明	長野県景観条例に基づく大規模な行為等の届出件数の累計							
② 景観に対する市民の意識向上	件	12	12	10	12	120.0%		
指標説明	市民の景観に対する意識の向上を図るための啓発活動の累計							
③						-		
指標説明								

3 施策全体にかかる合計コストの推移

*項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	28年度	29年度	30年度	元年度(予算)
直接事業費	545	765	706	720
人件費	800	880	880	1,200
合計コスト	1,345	1,645	1,586	1,920

●施策の評価（CHECK）

4 施策の現状評価

*30年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

都市景観事業は、都市サインの維持修繕を行った。
景観形成誘導事業は、景観計画の市民、関係機関等への意識の醸成が図られ、確認申請の事前段階で意匠、色彩等についての窓口での相談がきているが、業者の認識も高くなってきている。

*岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	豊かな自然環境、歴史的景観資源に加え、製糸産業が日本の近代化に寄与した産業遺産等が岡谷市の独自の文化的、歴史的資源として存在する。
岡谷市の弱み	人口減少に伴う空き家が景観を阻害し、歴史ある景観資源が失われつつある。

5 今後の外部環境の変化

*令和2年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	景観を考える会が景観マップを作成するなど市民団体の活動に一定の成果が出ている。シルクファクト、近代化産業遺産が観光資源として活用され始めている。
不利に働くもの	景観の誘導を資本主義の経済活動の妨げとの考え方もあり、地域として守るべき景観、育む景観の普遍的な価値の見極めが難しい面がある。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 令和2年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	景観事業は成熟・安定期の都市計画には大切な事業であり、ストック活用、魅力あるまちづくりの上で活用すべき手法である。 都市景観整備事業は、都市景観形成の核となる公共施設などを誘導する都市サインの整備であり、まちの顔となるひとつの要素である。利用者の利便性を図るとともに、まちのイメージづくりとして整備を進める。
見直しを行う分野	

●令和2年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費			人件費			妥当性	方向性	優先度					
					指標名	単位	28年度	28年度	28年度											
							29年度	29年度	29年度											
							30年度	30年度	30年度											
元年度(予算)		元年度(予算)	元年度(予算)	元年度(予算)																
1		内部	なし	都市景観整備事業	-	-	206	510	510	400	400	400	標準	継続して実施	B：現状維持					
2		一般	あり	景観形成誘導事業	保全誘導件数	件	8	12	6	339	255	196	210	400	480	480	800	標準	継続して実施	B：現状維持
3																				
4																				
5																				